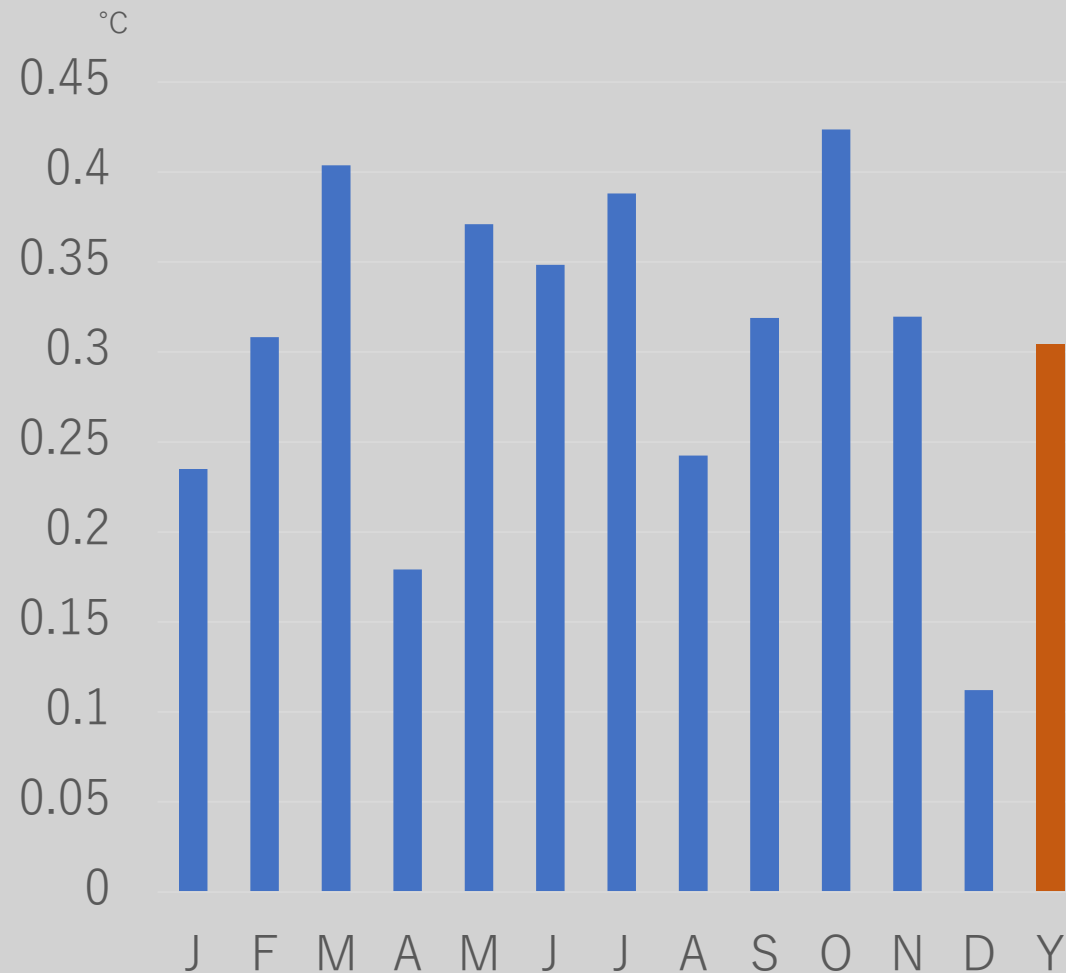


更新平年値に見る 年・月平均気温の変化

平年値の統計期間が1991~2020年となった

- 新平年値は、令和3年5月19日から使用されている。
- 新平年値ではこれまでの平年値と比べ、年平均気温は全国的に0.1~0.5°C程度高くなった。
- 地上気象観測（157地点）の気温の平年値の変化量を調べた。

年・月平均気温の新旧平年値の偏差の平均

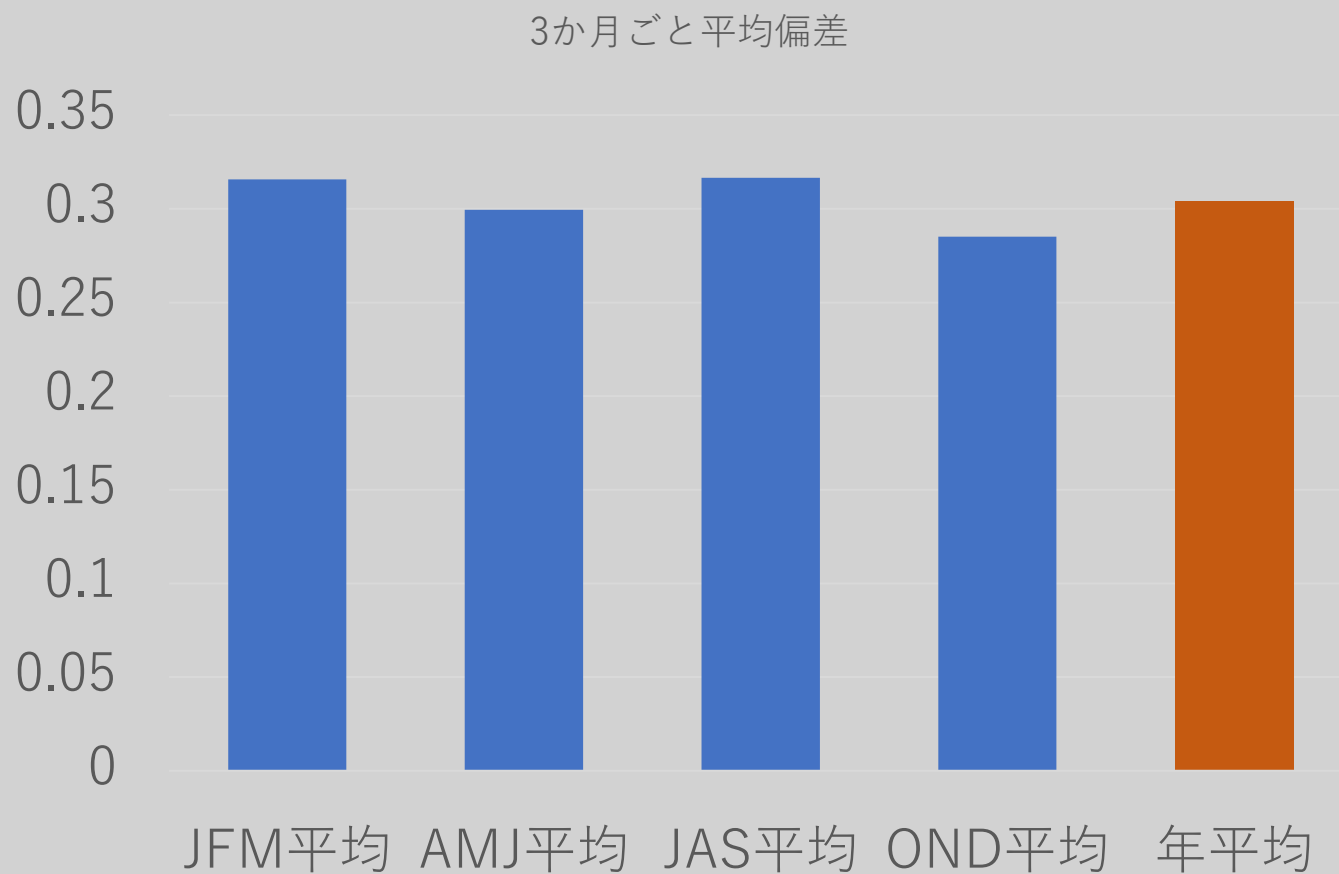


10月、3月、7月、5月の気温上昇幅が大きい

12月、4月、1月、8月の気温上昇幅が小さい

年平均偏差と12月の偏差の差は -0.192°C
10月の偏差と年平均偏差との差は $+0.119^{\circ}\text{C}$

3か月ごとの平均値は年平均偏差との差が小さい



差の最も大きい
ONDでも -0.019°C

年平均気温の上昇幅の大きな観測点

順位	1	2	3	4	5
観測点	浜松	千葉	つくば	宇都宮	水戸
上昇幅 (°C)	0.576	0.514	0.481	0.475	0.475

順位	6	7	8	9	10
観測点	熊谷	東京	横浜	前橋	仙台
上昇幅 (°C)	0.465	0.452	0.449	0.441	0.436

浜松について

- 2012年11月15日、北へ約5.0km、標高31.7→45.9m 観測所移転
- 2020年8月17日に41.1°Cの最高気温を観測
- 10月は0.80°C上昇している

年平均気温の上昇幅の小さな観測点

順位	1	2	3	4	5
観測点	岡山	新潟	南鳥島	名瀬	牛深
上昇幅 (°C)	-0.341	0.080	0.136	0.142	0.172

順位	6	7	8	9	10
観測点	雲仙岳	種子島	枕崎	萩	名護
上昇幅 (°C)	0.178	0.183	0.184	0.187	0.192

岡山について

- 2015年3月5日北北東へ約3km（風向風速計・日照計以外）移転
- 11月は -0.66°C
- マイナス幅の最も小さい3月でも -0.08°C

新潟について

- 2012年6月28日南西へ約3.3km（風向
風速計・日照計以外）移転

地方別の年平均気温平年値の上昇幅

順位	1	2	3	4	5	6
地方	関東	東海	東北	北陸	甲信越	近畿
上昇幅 (°C)	0.43	0.35	0.34	0.33	0.311	0.307

順位	7	8	9	10	11	12
地方	北海道	四国	九州	中国	島嶼	沖縄奄美
上昇幅 (°C)	0.303	0.29	0.26	0.25	0.24	0.22

月平均気温の上昇幅上位

順位	1	2	3	4	5
地方	関東7月	関東3月	北陸7月	東北7月	東海10月
上昇幅 (°C)	0.62	0.60	0.57	0.56	0.55

順位	6	7	8	9	10
地方	関東6月	関東10月	東北6月	甲信越10月	近畿10月
上昇幅 (°C)	0.55	0.53	0.51	0.51	0.50

月平均気温の上昇幅下位

順位	1	2	3	4	5
地方	北海道12月	東北12月	中国12月	北陸12月	沖縄奄美4月
上昇幅(°C)	-0.018	-0.015	0.01	0.03	0.08

順位	6	7	8	9	10
地方	島嶼1月	北海道8月	甲信越4月	北陸4月	甲信越12月
上昇幅(°C)	0.089	0.092	0.10	0.12	0.13

地方ごとに見る変化

- この10年の日本の気候変動の一端が垣間見られる
- 北海道、東北、北陸は12月の気温上昇が小さいか、わずかに低下している。7月と9月の気温が上昇したが、8月の気温はあまり変わらない
- 関東の気温上昇は大きいですが、3月、7月10月の上昇が特に大きい

地方ごとに見る変化

- 南鳥島は12月の気温上昇が大きい
- 東海は3月、10月の気温上昇が大きい
- 四国は10月の気温上昇が大きい
- 沖縄は6月、11月、12月の気温上昇が大きい